

四、革新の意味するもの

「革新」という言葉は現在、俗語的用法が一般化して言葉本来の意味を失っている。私は、「革新」とは、国民大多数の願望の実現を妨げるものを克服していく力だと答える。

国民の願望とは、先ず国民個々の能力を活発に展開できる明るい社会であり、次に経済成長を通じて国民生活の向上を計ることであり、更に経済成長に伴うヒズミが、社会に違和感をつくりたりするのを正していくことだろう。

経済成長といつても、みずからの経済や経営を不断に革新していくと共に、世界経済の視野から貿易や資本の自由化を進めていくことも、一つの「革新」であるし、また技術の「革新」ということもある。いわゆる「革新勢力」は、かくして招来される生産性の向上に執拗に反対し、本来の意味の「革新」に背を向けている。

また、現在の経済体制は純粹に資本主義でも社会主義でもない。資本主義を支柱とした混合体

制というべきだ。イデオロギーにとらわれることなく、新しい手段を取入れて不断に自己革新しながら世界経済の中での厳しい競争に耐えていくことが必要だ。

現実の政治の舞台で見ると、自民党は強い指導性を確立できず、また既存の制度や慣行を革新しきれしていない。そこにいわゆる「革新勢力」の対決とは次元の異なる課題がある。一方、社会党は教条主義に陥り、真剣な革新を怠り、保守が革新かの命題をいつの間にか、戦争が平和かの問題にすりかえてきている。だが、平和の維持こそは、イデオロギーに関係のない政治全体の第一の課題であって、いわゆる「革新勢力」の専売特許では断じてない。